

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名	
障害者政策と自立支援（通スクーリング）	2	1	通年開講	綿 祐二	
テーマ	障害とは？ 過去の障害者政策の矛盾点は？ 障害者の自立と自律とは？ 今後は...				
科目のねらい					
<p>【キーワード】 障害者政策、自立支援、、、</p> <p>【内容の要約】 障害者政策は、歴史的変遷は決して明るくない。「隔離政策」「優性思想」「差別」など多くの負の遺産が存在する。デンマーク社会省知的障害課の職員であったバンク・ミケルセン（Bank-Mikkelsen, Neils Erik 1919～1990）は、1953年、親の会の要望から「知的障害者福祉政策委員会」が設置し、1958年報告書で「知的障害があってもその人は一人の人格を持っているのであり、ノーマルな人と同じように生活する権利を持つ」とノーマライゼーションの思想を確立した。このノーマライゼーションが障害者福祉の世界に大きな影響を与えたのは事実である。本講義では、障害福祉政策の歴史的変遷を追いながら、「そこにある矛盾」を議論していく。1990年代の社会福祉基礎構造改革が障害者福祉施策に与えた影響、特に2006年施行の障害者自立支援法（現在は障害者総合支援法）の理想と現実を押さえながら、今後の障害者福祉施策を検証していく。●障害者福祉施設で相談援助業務に従事し、かつ社会福祉法人理事長である教員が講義を行い、障害者福祉現場の今日的課題についても触れていく。特に8050問題、家族の共依存、経済的共依存、権利擁護、後見について、障害者差別、インクルーシブ教育、合理的配慮などの具体的事例について検討していく。【日程・スクーリング会場】  <a href="https://www.nfu.ne.jp/open/image/lesson/schooling_schedule.pdf">https://www.nfu.ne.jp/open/image/lesson/schooling_schedule.pdf</a> ※変更の場合は随時お知らせします</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①障害のとらえ方の国際比較を行い、その差異の本質を考える。</li> <li>②日本の障害施策の歴史的変遷を追いながら、その矛盾点を説明できる。</li> <li>③障害者にとっての自立について、多角的に指摘できる。</li> <li>④障害福祉の今日的課題について学び、解決法を考える。</li> <li>⑤今後の障害者政策・障害者支援の方向性について考察できる。</li> </ol>					
授業のながれ					
<p>【講義の流れ】</p> <p>まず、『「障害」のとらえ方』について、過去の障害者政策の歴史的変遷から考察をしていく。特に国際比較を行い、その差異の本質を考える。次に日本の障害施策の歴史的変遷を追いながら、「そこにある矛盾」を議論していく。「隔離政策」「優性思想」「差別」の歴史から「障害者の自立と自律」をどう考えていくのか、また「障害者権利条約」からみる障害者施策の今後の方向性について検討を行っていく。</p> <p>【講義のポイント】</p> <p>過去の障害者政策についての「矛盾」をグループで徹底的に討論していく。そして、そこから「人が生きること」「人を支えること」について考え、ソーシャルワーク実践における「命題的理念と実践的理念を融合すること」を目指していく。</p>					
準備学習の内容・学ぶ上での注意			事前事後学習		
<p>「障害者権利条約」「障害者総合支援法」「ノーマライゼーション」の基本知識を学習しておくこと</p> <p>本講義では、障害者福祉の施策の歴史的変遷を追いながら、その矛盾について、グループワークで本音でディスカッションを行っていく。障害者福祉領域は、まだまだ賛否両論が存在する。ディスカッションの過程において、多くの知見に触れ、自分なりの福祉観を涵養してほしい。ディスカッションは、正誤を決めることではなく、多様な考えを受入れ、相互の意見から新たな知見を得るものである。積極的な議論をしていきましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】</p>			事前	関連図書を手にとってみる。	10時間
			事後	興味をもった講に関して学習を深める。	10時間
					時間
					時間
成績評価の方法					
<p>期末試験（筆記・Web・レポート・最終授業内） 90%</p> <p>授業内でのレポート・課題等 10%</p> <p>その他 0%</p>	<p>2日目の最終講義で行う科目修了試験（レポート）とグループ討議への積極的参加に評価を加えていく。評価基準はA（100～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）を合格、D（59点以下）を不合格とする。2日目の最終講義で行う科目修了試験（レポート）とグループ討議への積極的参加に評価を加えていく。評価基準はA（100～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）を合格、D（59点以下）を不合格とする。</p>				
テキスト					
<input type="checkbox"/> テキストを利用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	<p>【参考図書】 東京都社会福祉協議会（2020）『障害者総合支援法とは・・・[改訂第3版]』東京都社会福祉協議会</p> <p>バンク・ニリエ（2004）『ノーマライゼーションの原理—普遍化と社会変革を求めて』現代書館</p>				